別紙３

平成 30 年度厚生労働科学研究補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）

「乳幼児突然死症候群(SIDS)を含む睡眠中の乳幼児死亡を予防するための効果的な施策に関する研究」

分担研究報告書

分担研究課題名：本邦の SIDS および睡眠中の乳児突然死例の病理解剖の実態調査と登録システムの構築

研究分担者：氏名（所属）　柳井　広之　（岡山大学病院）
研究協力者：氏名（所属）
氏名（所属）

研究要旨
本邦における SIDS 症例の病理解剖実施体制についての実態調査を行ない，現行の「ガイドライン」「チェックシート」の実効性や実施体制の問題点を調査した。チェックシートの認識率は回答施設のなかでは 50%程度であり，使用されている頻度はまだ低いものと考えられた。チェック項目のうち，死亡直前や発見時の状態など死亡エピソードに直接関係がありそうな点は情報が集めやすいが，それ以外の項目は情報が得にくい傾向にあった。チェック項目の内容，「チェックシート」の実効性について今後検討していく必要がある。

A.研究目的
現行の SIDS 診断「ガイドライン」「チェックシート」の実効性や実施体制の問題点を調査する。
B.研究方法
過去 10 年間に SIDS 症例の病理解剖を実施した施設にアンケートを送付し，回答を集計，解析した。
C.研究結果
「チェックシート」の存在を知っていたのは 50%程度の施設で，知っている施設でも全例で使用されているのではなかった。チェック項目の中で家族情報や普段の就寝時体位，着衣の情報は得られにくい傾向があった。各施設での経験が少ないため，執刀医は医学的，社会的な困難を感じていた。
D.考察
調査対象期間の前半は「チェックシート」が発表される前だったため認識率はやや低いものと考えられた。また，チェック項目の中エピソードに直接関連する事項の情報収集率が高く，それ以外の項目の情報収集率が低くなっているものと考える。収集できる情報の内容は病理医そのものよりも小児科医，救急医の問診内容に依存している。
E.結論
病理解剖例における「チェックシート」の認識率を高め，実効性についてもさらに検討する必要がある。
F.健康危険情報
なし
G.研究発表
1.論文発表
なし
2.学会発表
1)「SIDS の病理解剖の現状と課題」第 25 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会（2019 年 2 月・岡山）
（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）
H.知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3.その他
なし